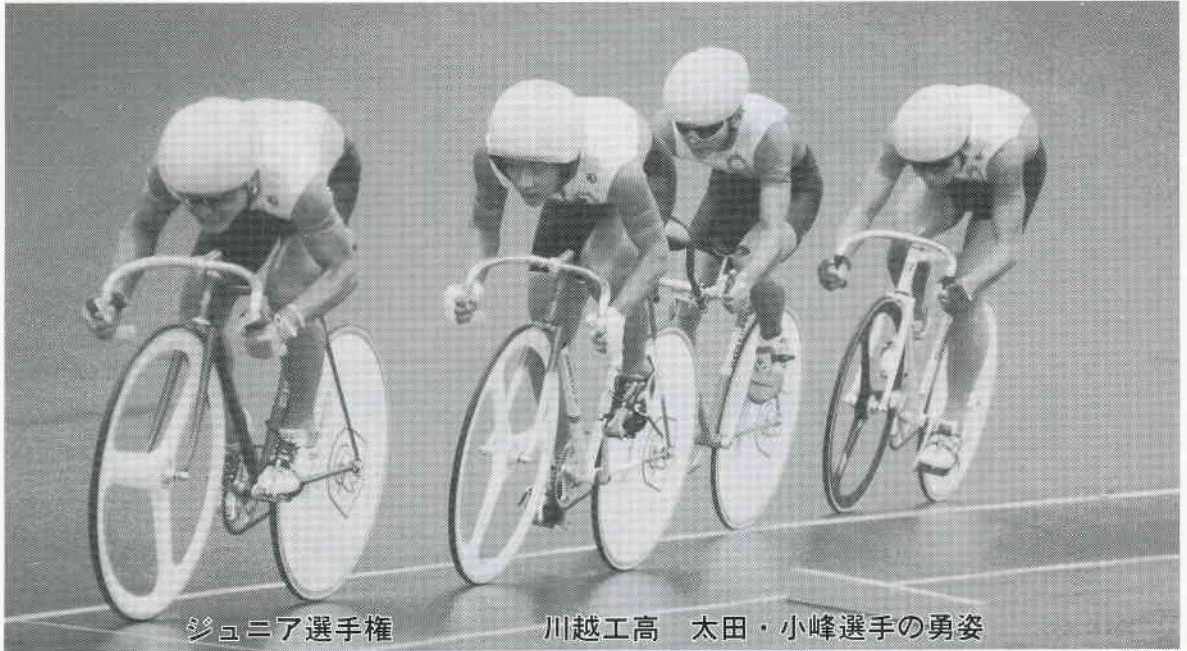


# スポーツ

# 川越

発行 川越市体育協会



ジュニア選手権

川越工高 太田・小峰選手の勇姿

## 人は信念・情熱に 比して若くあり

体育協会副会長 澤田 精一

私は、仕事にあるときも、職場を離れて生きるときも、常に若々しく活気に充ちた日々を過ごしたいと念じています。

連合軍司令官マッカーサーも愛唱したというサミエル・ウルマンの「青春の詩」が、今も脳裏にあり、ともすると易きにつこうとする私の心を叱咤してくれるのです。

・ ・ ・ 曰く、「歳月は皮膚に皺を刻むが、情熱の消滅は魂に皺を刻む。七十歳になろうと十六歳であろうと、人間の若い心の中には、不屈の闘志」や、子どものような好奇の眼、人生への興味・希望に燃え勝負を挑む気迫がある」と詩っています。

「人は信念・情熱に比して若くあり」です。

川越市民憲章に、「教養をふかめ、心ゆたかな市民として、かつりよくにみちたまらにします」とあります。川越市民一人ひとりがこの気迫をもって生きることが大切ですが、その推進の核となるべきは、やはり行政であり、体育協会の大きな活動目標であると思います。

私たちの住む三十一万都市川越は、今まで幾多の逸材を輩出していますが、ことスポーツ界に限っては、人口に比して少ないのではないのでしょうか。

川越市内の小学校を卒業して、オリンピック級の選手になったという話は、真聞して聞いておりません。なぜなのでしょう。そのような土地柄なのでしょうか。川越は、スポーツについては人材不足なのでしょうか。人材養成施策にぬかりがあったのでしょうか。

私はトップ選手が多ければ、それでよし、というつもりはありませんが、指導を携わる立場にある我々は、冷静に、大局的な見地から見直してみる必要があるのではないのでしょうか。

「天下布武」の拠点として安土城を築いた織田信長は、宣教師フロイスなどを通じ、ヨーロッパ文明と積極的な関わりを持ち、世界の潮流を踏まえて、日本の歩むべき道を決していこうとしたとのことです。

川越のスポーツ界も、常に、日本全体との関係を、さらには、世界全体との関わりをも視野にいれこつことと、健康で心豊かな市民を育む施策を展開していきたいものです。

そのような努力を積み重ねていけば、いつの日にか、世界の空をあざやかに飛翔する「初雁」を眺めることができるのではないのでしょうか。

# 世界選手権出場

川工  
大田・小峰

# 国体十年連続出場

スケート  
菅野泰弘

## 川越工・自転車競技部紹介

### 川越工業高校

#### 自転車競技部

監督 柴崎 邦輔氏

創立八十七年を迎える本校に、自転車競技部が創部したのは、学制改革により新制高校が発足した昭和二十三年頃である当時は、オールマイティの選手が多く、他クラブとの掛け持ちの選手が活躍していた。



昭和二十五年に、第一回全国高校対抗自転車競技大会が東京都で開催され出場した。以後本年まで連続して出場している。

素晴らしい成長を願うことと共に競技の成果が目的である。それを達成するために、日々努力をしている訳である。

現在は、主に一般道路で一日六十KM程度の練習を行い、長期休業中には、大宮双輪場でトラック練習を行なっている。他に体力向上を図るため、ウェイトトレーニング

ング、サーキットトレーニングを取り入れ競技力の向上を図っている。その結果、インターハイ、国体、関東大会等で優勝・入賞も多く、川越工の名声は全国的に高いものがある。

### ジュニア世界選手権

に出場して

#### 川越工業高等学校

##### 自転車競技部

太田 真一



今回、ジュニア世界選手権に出場し、オーストラリア・パースへの長期遠征となった。代表選手十名、監督コーチ三名の計十三名の日本選手団で試合に望んだ。

試合で使われた競技場「スピードドーム」は周長二百五十Mという短走路、さらに木製という日本にはない競技場であった。初めはコーナーでの遠心力などに戸惑いをかかせなかったが、日をおうごとに慣れて走れるようになった。競技は、三種目のエントリと

なり、試合時間が朝と夜のため、気の抜けない日々であった。

試合では、千メートル・タイムトライアルで、自己ベストには及ばなかったが、六位に入賞し、ほっとしたところであった。

オーストラリアの人々は自転車競技に対する興味が高く、観衆も多く集まり、とても盛り上がりがあった。日本の試合でも多く観衆が集まっていたと思っ

この経験を生かし、これからの競技人生で、より努力し、国際舞台で活躍していきたい。

### ジュニア世界選手権

に出場して

#### 川越工業高等学校

##### 自転車競技部

小峰 賢太郎

昨年の九月から十月にかけて、ジュニア世界選手権に参加のためオーストラリアの西部にあるパースへ行って来ました。

世界選手権に出場するのは、初めてでしたので、世界選のレベルが、どれ程なのか解らない状態でしたが、参戦しました。外国人選手は、日



本日の選手と比べ、体がとても大きく、圧倒されてしまいました。国内での大会と同じ気持ちで、ポイントレースに出場しました。

実際に、レース人への走りは、日本人とは、かなりの差がありました。先ず、レースのスピードが速い事です。点数のある周囲には、日本の短距離のレースとおなじくスピードでした。又レースの運び方も、日本とは、全く違って少戸惑ってしまいました。ポイント周回の時も、いくら頑張っても集団の前ま

でとどかず、ポイントは、全く取れず予選十五位で決勝へは進めませんでした。この世界選手権大会の経験を生かし、これからは頑張りたいと思います。

### 私のスケート人生

#### 川越市スケート連盟

菅野 泰弘

私は福島県より上京以来、都内のスケートクラブでスケートの練習をしていましたが、川越に転居後は、しばらく遠ざかっていました。そんな時、昭和四九年市内にスケートリンクがオープンしました。私はそれを機に練習を再開しましたが、仲間について行けず、

自分の体力の低下を噛みしめたものでした。私が、四十歳の時、国体に三五歳以上のスケートの部が創設され、厳寒の鉦路にて初出場の夢を果たしました。



何時の試合でもスタートの緊張感やレース後の安堵感があります。また、これまで表彰台には二回上がることが出来ました。

国民体育大会に十年連続出場が果たしたのは、家族の理解と職場の協力が得られたからです。感謝の気持ちでいっぱいです。

国民体育大会の十年連続出場を記念し、三五歳以上の選手の仲間会も出来ました。この会で、選手生活の苦労話を聞くのは、厳しい競技生活の中で心を休める楽しい一時です。

現在私は、宇都宮に単身赴任中で、現地のちびっ子たちと張り合いながらの練習の毎日です。

シーズンには、日光のリングで「何処の叔父さんなの」と言っていた中高生と一緒に滑り、大会に備えております。

今後、健康で体力の続く限り張り、競技生活で得たものを、次代を担う、子供たちの指導に役立てたいと思います。

# 一 資質の向上を旨とする一 ス ポ ー ツ 指 導 者 養 成 講 習 会

川越市教育委員会・川越市体育協会主催による、スポーツ指導者養成講習会は、体育協会傘下の各団体の指導者を対象にして、生涯スポーツ社会に対応できる「指導者の資質の向上」を目指し、九月二十日、二十七日、十月四日、一九日と四日間にわたり開催されました。

力ある生活を営み、明るく豊かな生活を送るためには日常生活における、スポーツ活動に積極的に取り組み、生涯を通じスポーツに親しめるようにする」と捉え、生涯

スポーツの振興には指導者が最も貴重な地位をおさめるとして、指導者の心得等について具体的に指導いただき、実り多い講習会となりました。

### 講習会日程・内容

第一日 講師 濁川孝志先生

「体力アップと健康づくりの生理学」

- ・運動と栄養
- ・運動と筋肉
- ・水分摂取の方法

第二日 講師 沼沢秀雄先生

「少年期・青年期・壮年期のトレーニング」

- ・筋力
- ・持久力
- ・総合トレーニング

第三日 講師 田嶋幸三先生

「サッカーを中心にしたトレーニング法の国際比較」

- ・青少年期のトレーニング

第四日 講師 藤間建夫先生

「生涯スポーツと社会体育のあり方」

- ・楽しみや健康づくりのスポーツ
- ・指導者心得

講習会参加者八十名は、夜の講義にもかかわらず、一日の仕事の疲れを忘れ、私語もなく熱心に聴講されました。第一回講習会修了者

体育協会加盟団体指導者 二八名  
スポーツ少年団指導者 一七名  
婦人スポーツ団体連絡協議会 七名  
体育指導委員 一七名

### アンケート

来年度の講習会をより実のあるものにするため、次の八項目について調査を試みた。



- 一 講習会について
- 二 開催期日について
- 三 講義回数について
- 四 講習の時間について
- 五 講師について
- 六 講義内容について
- 七 今後どんな講義を希望するか
- 八 運営全般について

### 調査結果

講習会は、参加者全員の方が参考にしたと回答を得た。また、期日、回数、講師、講義内容等についても適当であった。

### 意見・感想

1. 講習会について	人 32	5. 講義によかった	人 19
(1) 大変参考になった	16	(1) 大変よかった	29
(2) 参考になった	0	(2) よかった	0
(3) 参考にならなかった	0	(3) 普通	0
2. 開催期日について	38	(4) よくなかった	0
(1) 本年度の計画でよい	10	6. 講義内容について	24
(2) 講習回数が多い	10	(1) よかった	21
3. 講習の回数について	43	(2) このくらいでよい	0
(1) 4回が適当	0	(3) 難しすぎる	0
(2) 4回は多すぎる	5	(4) 簡単すぎる	0
(3) 4回は少ない	0		
4. 開催時間	42	* 7. 8. については、次ページの	
(1) 月～日曜の夜	8	参考意見としてまとめた。	
(2) 土～日曜の午後	0		

- ◎ 身近に受講できる機会が少なく大変参考になりました。熱心な受講態度に感動しました。
  - ◎ 胸の奥に眠っていたものが呼び起こされました。
  - ◎ 知識としてもっていたものが再認識の意味で良い内容でした。実技も内容の中に加えてほしい。
  - ◎ 曜日・時間を検討してほしい
- 来年度は、この意見・感想等を参考に計画したいと思います。

### 「仮称」

### 川越運動公園体育館

### 建設状況について

体育館は、川越運動公園の一環として工事が進んでおります。十月完成予定の体育館の概要についてお知らせします。



### 施設の概要

- ・メインアリーナ
  - ・バレーボール③
  - ・バスケット②
  - ・バドミントン⑩
  - ・テニス ②
  - ・観客席・約二千三百席
  - ・サブアリーナ
  - ・バレーボール①
  - ・バスケット①
  - ・バドミントン③
  - ・その他
  - ・武道場 ②
  - ・弓道場 ①
  - ・トレーニングルーム ①
  - ・ランニングコース ①
  - ・会議・更衣室 喫茶コーナー等
- ※ ○数字はコート面の面積

# 第46回川越市民体育祭

川越市民体育祭は、健康で明るく豊かな市民生活を築くため、スポーツ及びレクリエーションを広く市民の間に普及し、生涯にわたる市民スポーツの活動を一層活発化するとともに、競技力の向上を図ることを目的として開催し、本年は四六回目になります。

第四六回市民体育祭は、九月五日の水泳競技を皮切りに千五百名余りの参加で盛大に開催され、二月二十七日のスキー競技を最後に、全競技二七種目が無事おわりました。

各種目の開催期日、会場、参加人数については、別表の通りをご覧ください。

参加状況をみますと、今年度の参加者は二二一五名で、昨年度より約四千二百名減少しております。

種目別にみると、全体的には参加者の横ばい、減少傾向にある中で、バレーボール・サッカー・弓道等は参加者が増加しており、また、ソフトボールは参加者が減少したといえ、三千名余りの参加で大会は数カ月にわたり行われております。

サッカーは、Jリーグ人気も手伝って年々増加しており、本年は二千名を越し、ベスト3の人気種目となっています。

参加者を年代別にみると、青年婦人層の参加増がみられ、少年少女・壮年男子の参加が減少傾向にある。

町内体育祭  
市民体育祭の一貫として行なわれる、町内体育祭は

実施自治会 一八七自治会  
会場数 三三会場  
実施期間 九月一九日～十一月七日



で開催されました。

町内体育祭は日曜日に市内各小中学校を会場にして、秋のスポーツシーズンに開催されております。

町内体育祭も参加者の減少が見られる。

しかし、市民体育祭、町内体育祭への参加者は、六万五千人余りで市民の二割、五人に一人が参加するという、市の一大イベントにはかわりがない。

現代は、生涯スポーツの時代といわれています。誰でも、楽しく参加できる市民体育祭、町内体育祭を企画し、市民が生涯にわたりスポーツ活動を楽しみ、豊かな生活ができるよう、更にスポーツの振興を図りたいものです。

## 平成5年度第46回川越市民体育祭実施報告一覧表

種目	日時	会場	平成5年度市民体育祭参加状況一覧					合計数
			小・高	青年	婦人	少年	その他	
野 球	9/12・15・19	初雁球場		300				300
卓 球	10/3・1	市民体育館		276	55	29	9	369
ソフトテニス	10/8・21・11/7	市宮城下コート	52	64	108	16		240
バレーボール	9/12・11/28	市民体育館	150	250	650			1050
バスケットボール	10/17・11/21	川越初雁高校	285	465	15			765
サッカ	10/3・12/5	陸上競技場	1390	560	80			2030
柔道	10/17	川越武道館	285	78	32	36		431
剣道	10/10	川越武道館	244	40	21	33		338
弓道	10/11	川越武道館	40	16	28	45	12	141
空手	10/10	川越武道館	59	44				103
陸上	9/19	陸上競技場	370	35	1	20	1	426
水泳	9/5	川越女子高校	1344	51	55	63	5	1518
スキー	11/6・2/27	湯沢パークスキー場	45	44	13	101	12	215
クレーン射撃	10/10	群馬県射撃場				60		60
ライフル射撃	9/1	朝霞オリンピック射撃場			3	30		37
スケート	10/11	東武川越スケートセンター	21	6		4		31
体操	10/10	市民体育館	131					131
小作	10/10	川越西小学校	1320					1320
中高作	10/19・20・22	市民体育館	4980					4980
レクリエーション	9/18・11/15	川越高校	2262					2262
バドミントン	10/17・11/21	第一小学校	8	9	320	33	17	387
少林寺拳法	10/1	市民体育館	80	52	56	68	4	180
ソフトボール	9/5・11/14	市民体育館		100	10	20		210
テニ	10/2・11/7	大間橋グラウンド			420	2580	43	3043
ボウリング	10/2	川越水上公園		1310	50	40		1400
なぎなた	10/1	川越ファミリーセンター			12	36	8	96
合 計	10/1	川越武道館	14	1	37	37		52
合 計			13080	3717	1990	3218	110	22115

平成五年度、表彰式は平成六年二月二十日、やまぶき会館に於いて舟橋川越市長より、祝福と激励の挨拶をいただき、二二七名の受賞者に舟橋市長、村田教育長、関口体育協会会長より、賞状と記念品が贈られ、表彰式は厳粛に行われました。

### 体育功労賞

本市体育・スポーツの振興に著しく貢献した、五名の方が体育功労を受賞しました。

- 鈴木 美佐男 野球
- 半田 孝 柔道
- 荻野 壽明 剣道
- 栗原 昇 ソフトボール
- 箕輪 絹子 学識経験理事

### 特別表彰

- 菅野 泰弘 国民体育大会 十年連続出場
- 菅野泰弘氏は、第三九回国民体育大会より十年連続出場を果し、埼玉代表選手としてスケート競技に活躍した。その功績を讃え、特別賞が贈られた。
- 選手 菅野泰弘 スケート連盟 国民体育大会出場記録
- 39 北海道国体 40 青森国体
- 41 山梨国体 42 長野国体
- 43 群馬国体 44 北海道国体
- 45 岩手国体 46 長野国体

### 優秀選手賞

市内在住、在学、在勤の選手で埼玉・川越を代表し、関東・全国大会等に出場し活躍した選手の二百十六名が受賞しました。

- 卓球の部
  - ・全日本軟式卓球選手権 五名
  - ・全日本社会人卓球選手権 二名
  - ・全国健康福祉年輪ピック 二名
  - ・全国高校総合体育大会 八名
  - ・国民体育大会 東四国 一名
- ソフトテニスの部
  - ・全国高校総合体育大会 十五名
  - ・国民体育大会 東四国 五名

### 表彰式

- ・全国社会人選手権大会 八名
- ・バレーボールの部
  - ・全日本V・B小学生大会 十二名
  - ・さわやか杯 一名
  - ・関東ブロックスポ少大会 十二名
  - ・全国高校総合体育大会 十五名
  - ・国民体育大会 東四国 五名
- ・バスケットボールの部
  - ・全国高校総合体育大会 十三名
  - ・全国自治職員 サッカー選手権大会 二四名
  - ・全国中学校柔道大会 一名

- ・国民体育大会 東四国 一名
- ・全日本視覚障害者柔道大会 一名
- ・全国高校総合体育大会 二名
- ・全国家庭婦人剣道大会 一名
- ・明治村剣道大会 一名
- 弓道の部
  - ・全国高校総合体育大会 二名
  - ・全国高校選抜大会 五名
- 陸上の部
  - ・関東中学校陸上競技大会 四名
  - ・全国中学校陸上競技大会 二名
  - ・ジュニアオリンピック 二名
  - ・全国高校総合体育大会 一名
  - ・国民体育大会 東四国 一名

### 体育功労賞 特別表彰者 優秀選手

五名 一名 二一六名

- 水泳の部
  - ・関東中学水泳競技大会 二名
  - ・全国中学水泳競技大会 二名
  - ・全国高校総合体育大会 二名
  - ・スキートの部
    - ・全日本マスターズ大会 三名
  - ・クレートの部
    - ・国民体育大会 東四国 一名
  - スケートの部
    - ・全国高校総合体育大会 一名
    - ・国民体育大会 東四国 三名
    - ・全国中学校スケート大会 三名
  - 体操の部
    - ・東日本ジュニア選手権 七名

- ・国民体育大会 東四国 一名
- ソフトボールの部
  - ・国民体育大会 東四国 二名
- ボーリングの部
  - ・東日本選手権 一名
  - ・東日本ジュニア選手権 一名
- 少林寺拳法の部
  - ・全国高校少林寺拳法大会 三四名
  - ・一九九二全国大会 六名
  - ・一九九三国際大会 五名
- なぎなたの部
  - ・全国健康福祉祭京都大会 二名
- 自転車競技の部
  - ・全国高校総合体育大会 七名
  - ・ジュニア世界選手権 二名
  - ・国民体育大会 東四国 三名
- レクリエーションの部
  - ・パウンドテニス選手権 一名

### 五千米トル競歩に優勝

鳩山高校(大東西中出身) 藤野原 稔人

私が、競歩を始めたきっかけは足の怪我のリハビリの為でした。そんな偶然からでも、大会ごとに記録を出し、結果を伴うようになったので、今回の東四国国体は大会前から勝って当然という周りの雰囲気でした。自分自身も勝たなければと思っていました。ところが国体の二週間前から風邪をひき、思い通りの調整ができなまま出発しました。試合前日

になって、更に体調が崩れてしまい、当日も不安の残したまま、会場に入りませんでした。少しでも不安をなくすため、普



段よりも念入りにウォーミングアップに心掛けましたが、あまり効果のないままスタートしました。調子が好くない事もあり、他の選手の出方を見ようと思いましたが、スタートしてすぐ他の選手が少しは離れたので、そのまま逃げ切ろうと決心しました。この作戦が的中し優勝する事が出来ました。体調不良の中で、自己新記録で優勝する事ができたのも、県選手団の皆さん、そして、顧問の山田先生をはじめ、多くの方々のご指導のおかげだと思います。今後とも一層努力しい結果を出したいと思えます。

# 活動報告

## ◆「全日本少年武道(空手道)」

練成大会に出場して」

空手道剛心館スポーツ少年団

団長 二渡 政彦

歴史と伝統の街、小江戸川越で剛心流空手道の指導を始め今年で七年目を迎えます。

昨年スポーツ少年団に加盟し、早くも、県空手道交流大会では三種目に優勝し、参加選手全員入賞と力を発揮してくれました。現役時代私と妻も国体や全日本、世界大会等の試合を通して様々な経験をしましたので、子供たちにも広く大会に参加できる環境を作りたくと常に考えています。

空手は他のスポーツ競技とは異なり、全国大会が各流派や団体ごとに行われます。日体協や文部省後援の全国大会は毎年八月初めに日本武道館で開催される表題の大会が、少年では最もビッグなものです。本大会は流派を問わず、全国約三五〇〇名の小・中学生(三人制)の団体型競技のみで日本一を競います。個人の技術力は勿論チームの呼吸や調和、礼儀の正しさ等入場から退場までチームが一体となって行わなければなりません。日頃は、指導者の指示で行動

する子供たちも、大会を機に準備体操などは自主的に行ったり、後輩の面倒を見る等の変化をみせています。

大会では、試合の成績のみならずわれず精一杯自己表現が出来るようまた、他流派の仲間たちと交流を図り様々な事を吸収してほしいと思います。

## ◆「全国大会 三年連続出場」

霞みなみ J・V・C

監督 大関 昭男

昭和六三年、一年生から四年生までの元気で可愛い男子十二名で全国体交出場を目標に創部し、初の県大会では、相手の練習を見て「強そう」と立派み、震えていた姿が浮かんできます。そして三年。

平成三年、子供達は厳しい練習に耐え、遅く成長、県大会で優勝、全国体交出場の夢を果たしました。結果は、経験不足から力を十分発揮できなかったが、全国のレベルを知ることができ、大変勉強になりました。

大会後は、多彩な攻撃力とチームプレーの向上に取り組み、連続出場を勝ち取りました。この年は名細女子も代表となり、県内初のアベック出場を果たし、川越のレベルの高さを誇示した。この大会では、愛媛 群馬を連覇し、ベスト8をかけ沖繩と対戦したが、五

年生部員が三人入った我がチームは、力及ばず敗退した。

平成五年度は、レギュラーを含め卒業部員が多く、入部半年の三人

を入れてスタート、暗中模索の苦しい状態でしたが、子供達は、三年連続出場への強い意志で県大会に臨み、伝統のサーブ力で勝利し、全国大会へと駒を進めました。

全国大会では今回も、ベスト8をかけ愛知と対戦したが惜敗、全力を出し切って戦った子供達の心は、とても爽やかでした。

互いに信頼し、厳しい練習に耐え頑張った選手、陰になって絶大な支援を頂いたコーチ・父母の皆さんに、心より感謝しています。婦人スポーツの活動

## ◆婦人スポーツ団体連絡協議会

会長 箕輪 絹子

婦人スポーツの振興を図り、明るく豊かな市民生活に寄与することをモットーとして発会した、婦人スポーツ団体連絡協議会は現在十二団体約六千名より構成され、「婦人スポーツの集い」を中心に市及び体育協会の行事等に積極的に参加協力して参りました。市のウォークソン大会での模擬店もその一つであります。

私共が企画した実技講習会では、成瀬先生のテーピング・二村式健康体操、いち早く取り入れたニュー

スポーツのソフトバレー等は、現在市民の方々に広く愛好され、クラブとして定着しております。

「集い」で取り上げた「気功」についても参加者の方々に大好評。市のスポーツ教室に取り入れて頂ければ願っております。

一年の締め括りとしての一泊研修では、多くのスポーツを経験し相互の理解をより深めるために、担当連盟指導による実技講習会では楽しい一時を過ごしております。

今年には素晴らしい体育館も完成するという事。私どもとしても、新しい施設を利用した一大イベントを企画したいと思っています。足元以来、九年目を迎え今後何をやるべきか、何を為すべきかを改めて見つめ直し、今年は一歩前進飛躍の年になるよう努力していきたいと思えます。

## 第22回市民駅伝競争大会

二十二回を迎えた「市民駅伝競争大会」は、好天に恵まれた。十九日(日)、川越運動公園陸上競技場を会場とし、中学、高校、一般の男女六十八チームが参加して行われました。

各部門とも五区間に、「二本のたすきにチームの和をつなげて」力走、中学男女の部で高階西中、一般Aの部ではA C 一〇一が二連覇

を達成しました。

また、中学女子の部(砂中)、高校男子の部(川越工高)、一般Bの部(川越陸友会A)の三部門で昨年の記録を更新しました。

本年は、一般の部のチーム数が増え、「市民の駅伝大会」にふさわしいものとなりました。

## 第21回市民ロードレース大会

第二十一回市民ロードレース大会は、二月十一日(祝)、川越運動公園陸上競技場を会場として開催されました。陸上競技場をスタート、ゴールとしたはじめての大会でしたが、円滑に終了しました。

レースは、小学生から一般までの男女計一八二名が一二種別に分かれて折からの寒風にもめげずに力走、参加者全員が完走した。

本大会は年齢層を細かく分けたため、入賞者数も多くなり大変よろこばれました。

ただ、時期的なこともあり、例年より参加数が少なかったことが反省されます。



第12回川越ウォークソン大会

参加者二、五九五名

秋晴れのもと、第12回川越ウォークソン大会が、文化の日の十一月三日、川越運動公園陸上競技場を中心に、景勝地、伊佐沼周辺をコースにして、盛大に行われました。

参加者は、幼児や子供からお年寄りまで、多彩な顔ぶれ。この大会に毎回参加されている方々同志では、和気あいあいの談笑。中には、親子三代、四人のご家族ぐるみの参加も見られた。

開会式で、舟橋市長の激励「今は健康の時代」

秋の暖かな日差しが降り注ぐ中、大会会長、舟橋市長より、

「今は健康の時代。秋の一日、新鮮な空気を吸って元気に歩きましょう。」と、激励のあいさつを頂き、開会式が始まりました。また名前を募集していた大会のシンボルマークは、「とき丸くん」と決定し、応募者二人に、記念品が渡されました。

参加者を代表して、池田典子さん(五四)が、

# 健脚つどう 2,595人

## 第12回 川越ウォークソン大会 平成5年11月3日(祝)

「より正しく、より美しく、より速く歩くことをここに誓います。」と、選手宣誓を行い、大会が始まりました。

### 競技開始、緊張のスタート

同九時、舟橋市長のピストルを合図に花火が打ち上げられ、競技種目、一般二〇キロ同一〇キロ女子の種目でスタートの火ぶたが切られました。

競技種目の部は、競技場トラックを一周してから、秋の田園風景が広がる伊佐沼周辺へとコースが移ります。トラック内での選手は、さすが鍛えられたフォームとスピードで、場内の注目を集めます。リズムミカルな腕の振りや、あつという間に競技場を後にし郊外コースに向かいました。

続いて、レクリエーション種目。一般、中学生、小学生親子と、続々と競技場を後にしました。

### 沿道での声援の中で

競技種目の参加者は、男子26名、女子21名で争われました。男子は二〇キロ(一〇キロコース二周)を約一時間五十分前後で、女子は十キロを約一時間で完歩します。これは一

分間に、一八〇M二二〇Mの速



さに相当します。大きく伸ばしたストライドで競歩する選手の額から、汗が流れてきます。接戦を続ける選手達に沿道の声援もひときわ高くなります。ゴール目指して、さらにピッチは上がります。



レクリエーション種目の参加者は、二、五四八名。参加のスタイルも様々です。よちよち歩きのお子さんのペースを温かく見守りな

がらの親子参加もあれば、「お母さん早く・・・。」と、可愛い手に引っぱられての親子もあります。

コース途中に設けられた給水所では、用意された水で一息ついている姿も多く見られます。今回は、一般60歳以上の参加が多く、中でも男子、最高歳者の中村源次さん(84)、女子では、大久保ルイさん(83)も、完歩して健脚ぶりを見せてくれました。



ゴールでは、どの参加者も、完歩できた喜びと、健康への自信があふれていました。成績は、競技種目、男子二〇キロ、古川春文さん(一時間52分31秒、初) 女子一〇キロ、須藤則子さん(57分12秒四回目)でした。いつでも、誰でも参加できる「川越ウォークソン大会」に、あなたも参加して見ませんか。

### 視察研修

十二月四・五日一泊二日の視察研修は、長野県坂城町にて冷たい季節風の中で寒さを忘れマレット



幹事 ・ バレーズ連盟  
・ スケート連盟

ゴルフの実技研修を楽しみ、宿泊地 白鳥園へ・・・  
賀詞交換会  
一月八日、市長・会長の鏡割に



幹事 ・ ソフトテニス連盟  
・ 陸上競技協会

始まり、東喜和流創作太鼓の力強い演奏により、会は最高の盛り上がりを見ました。

